

# 自立活動と各教科等との関連を意識した授業づくり

— 自立と社会参加に向けた特別支援学級での児童生徒のかかわりを通して —

特別支援教育研究会議

松尾 貴子<sup>1</sup>

橋詰 奈津子<sup>2</sup>

中尾 麻希<sup>3</sup>

林 香織<sup>4</sup>

## 要 約

平成 19 年の学校教育法の改正により、特別支援教育が制度化されて 10 年が経つ。全国的にこの 10 年間で特別支援学級に在籍している児童生徒は増え続け、ほぼ 2 倍となっている。川崎市の特別支援学級の在籍児童生徒数も、同じように年々増加をたどっている。在籍する児童生徒を指導する上で、他者とかかわる力は重要となる。教育活動全体を通じて児童生徒が相手を意識した適切なかかわりを学ぶことが、将来の自立と社会参加につながる大切な力の一つと考えた。集団学習では、友達とトラブルになることもあるが、生活単元学習や音楽、体育等でペアやグループで協力して活動することにより、集団ならではの楽しい経験を味わうことができ、よいかかわりが生まれることもある。

本研究では、学習指導要領の改訂を踏まえ、自立と社会参加に大切な力を検討した。対象児を小学校の A、中学校の B とし、実態把握を個別の指導計画や行動観察等を基に行った。それぞれの対象児に必要な自立活動の内容を選定し、自立活動内容表やかかわりの成立過程で整理した。自立活動の課題を意識して各教科等の授業を行うことで、対象児のかかわりがどのように変容していくのか探った。

自立活動と各教科等との関連を意識した学習を 3 つの柱に留意して整理し授業を行うことで、各教科等の目標の達成をめざすとともに、自立活動のねらいに沿った人とかかわる力が集団の中で育まれていくことが見えてきた。個々の特性に応じた指導と合わせてペア学習やグループ学習を取り入れた特別支援学級の集団で、他者を意識した学習場面を設定することが必要だと考えた。

キーワード：自立活動と各教科等の関連、自立と社会参加、かかわり、集団

## 目 次

I 主題設定の理由	94	(2) 授業づくりの 3 つの柱	98
1 共生社会の実現	94	(3) 指導の振り返り	98
(1) 多様性と社会的包摂	94	3 研究の実際と考察	98
(2) 特別支援学級の現状	94	・ 小学校の研究	98
2 かかわりを育む場	94	・ 中学校の研究	104
3 自立活動の意義	95	III 研究のまとめ	110
4 主題設定の理由	96	1 研究から見えてきたこと	110
II 研究の内容	97	2 今後の課題	111
1 研究の対象	97	参考文献	112
2 研究の方法	97	指導助言者	112
(1) 実態把握	97		

<sup>1</sup>川崎市立荏宿小学校教諭（長期研究員）

<sup>2</sup>川崎市立大戸小学校教諭（研究員）

<sup>3</sup>川崎市立日吉中学校教諭（研究員）

<sup>4</sup>川崎市立中央支援学校稲田分教室教諭（研究員）

# I 主題設定の理由

## 1 共生社会の実現

### (1) 多様性と社会的包摂

川崎市では、人々の意識や社会環境のバリアを取り除こうとする「かわさきパラムーブメント」<sup>1</sup>が進んでいる。そして、多様性(ダイバーシティ)と社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)の象徴としてパラリンピックに重点を置いている。障害のある人が生き生きと暮らす上での障壁となっている、人々の意識や社会環境のバリアを取り除くことや新しい技術で課題に立ち向かう運動、ムーブメントを「かわさきパラムーブメント」と位置づけ、誰もが暮らしやすいまちをめざして、様々な取組を進めている。同様に、学校教育においてもかわさき教育プラン<sup>2</sup>の基本理念を「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送る礎を築く」として、障害の有無にかかわらず、児童生徒が互いの個性を尊重し合い、生き生きとした学校生活を過ごしていくような共生社会につながる教育実践が行われている。

### (2) 特別支援学級の現状

平成 19 年の学校教育法の一部改正により特別支援教育が位置づけられてから、通常の学級や通級指導教室、特別支援学級及び特別支援学校においても、児童生徒の支援の多様化が進んでいる。また、特別支援学級の在籍児童生徒数は、特に年々増加傾向にある。

平成 29 年度の川崎市教育委員会「児童・生徒数・学級数等調査」によると、在籍者数は小学校 1,622 人、中学校 694 人である(図 1)。また、平成 28 年度の川崎市における「特別支援学級状況調査<sup>3</sup>」によると、在籍者数が 11 人以上の学校は、小学校で約 64%、中学校で約 56%であった。最も多い在籍者数は小学校で 33 人、中学校で 26 人であり、特別支援学級の大規模化が進んでいる。個別の対応が必要である児童生徒が増加するのに伴い、教師一人が担当する児童生徒数は増え、個別の学習だけではなく、集団を活かした指導方法の検討が必要となっている。

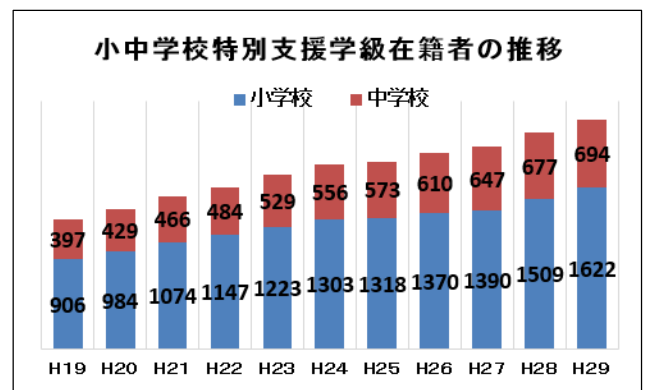


図 1 川崎市特別支援学級在籍者数

## 2 かかわりを育む場

特別支援学級の担任は、児童生徒の将来をイメージして、卒業までの目標を掲げ、どのような力をどのような時間でどのように指導していくべきか葛藤することがある。例えば、集団場面での児童生徒への対応の仕方がある。交流学級の友達に言われた一言がきっかけで突然パニックになり、児童生徒が教室からとび出してしまうことがある。このような場面で教師は、児童生徒同士をどのようにかかわらせたらいのか戸惑うことがある。さらに、学級づくりや授業づくりにどのように取り組んだらよいか悩みを抱えている。

そして、授業で学習したことを、日常生活の中でどのように活かしていくかが課題になっている。場に応じた行動を学ぶための SST<sup>4</sup>のワークやゲームの時間では、ルールを理解し適切な行動をその場で考

<sup>1</sup> 川崎市市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室

<http://www.city.kawasaki.jp/2020olypara/page/0000084341.html> 平成 29 年 9 月 15 日、平成 29 年 12 月 22 日

<sup>2</sup> 第 2 次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン 川崎市教育委員会 平成 27 年 3 月

<sup>3</sup> 「小学校特別支援学級状況調査結果」 川崎市総合教育センター 特別支援教育センター 平成 29 年 2 月

<sup>4</sup> Social Skills Training 社会の中で周りの人と協調して過ごすために必要な、社会的なコミュニケーションの技

えることができている、日常場面では実際の行動に移すことが難しい児童生徒も少なくない。それから、児童生徒一人一人に合わせた指導方法についての課題もある。教師は、特別支援学級での各教科等の指導の中で、社会性の基礎を集団場面でも伸ばしていきたいと考えているが、授業づくりにおいて悩むことがある。

児童生徒一人一人の自立と社会参加に大切な力を、教師が集団の中で育てることは難しいのだろうか。鳥羽<sup>5</sup>(2013)は、「集団の中で人とかかわる経験を積むことで、自分を振り返る内省力や、感情を自分で調整したり他者と折り合いをつけたりする自己コントロール力が身に付く」と述べている。また、国立教育政策研究所<sup>6</sup>(2011)では、「社会性の基礎は人とかかわることであり、異年齢の交流活動で年少者は『あんな年長者になりたいとあこがれをもつ』、年長者は『お手本になった』『役に立った』等の思いや自信、誇りを感じることができる」と、異学年集団での学習の重要性について述べている。児童生徒が習得・活用していく自立と社会参加に大切な力の中には、集団の中でこそ育つ力があるのではないだろうか。

そこで本研究では、上級生と下級生のかかわりの中に心の育ちがあると捉え、ペアやグループでの学習を意図的に取り入れた授業を考えた(図2)。

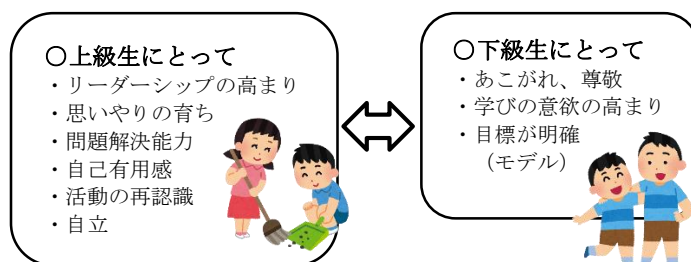


図2 異学年集団での心の育ち

### 3 自立活動の意義

生活年齢が上がり他者意識を示すことが見られても、自分の気持ちを適切に伝えることができなかつたり、場の雰囲気が理解できず自分が感じたままを発言してしまつたりと、他者とのコミュニケーションが上手くとれない児童生徒がいる。この場合、自分の気持ちを適切に伝えるといった個別の力を育てていくことに合わせて、場面や環境の変化に応じたコミュニケーション力を獲得していくことがより大切であると考えられる。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領においては、小・中学校等と同様の各教科等のほかに、自立活動という領域を設け教育課程を編成している(図3)。自立活動の目標は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」<sup>7</sup>と示されている。しかし、個々の児童生徒の自立活動の指導では、教師が児童生徒の実態把握や観点の整理方法が十分に理解できず、教師の主観による指導が行われることもある。また、集団で自立活動を行う際には、個々のねらいよりも全体の活動が優先され、ゲーム的な内容や集団に合わせた活動になってしまい、自立活動の目標である「学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う」ことに結びついていないことも少なくない。新特別支援学校小学部・中学

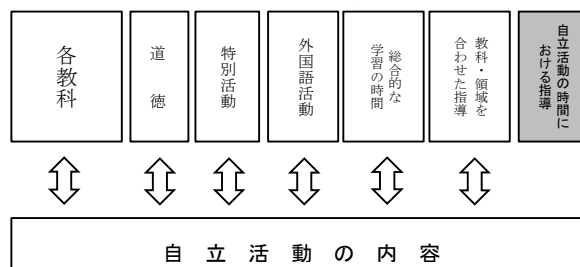


図3 教育課程における自立活動の位置づけ

能を習得するための練習のこと。

<sup>5</sup> 鳥羽美津代 「特別支援学級の集団を生かした授業づくり - 子どもたちが互いにかかわり合う授業展開を目指して -」 川崎市総合教育センター研究紀要第27号 平成25年

<sup>6</sup> 文部科学省国立教育政策研究所 「子どもの社会性が育つ「異年齢の交流活動」」 平成23年6月 p. 7

<sup>7</sup> 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 総則編 文部科学省 平成29年4月 p. 420

部学習指導要領において以下のように自立活動と各教科等との関連が明記されている。

**特別支援学校学習指導要領 総則編 小学部・中学部学習指導要領 第1章 第2節 (4)**

学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握して、適切な指導計画の下に行うよう配慮すること。

このように、児童生徒の個別の力を育てていくことに合わせて、場面や環境の変化に応じたコミュニケーション力を培うためには、一人一人に設定された自立活動の時間だけでなく、学校の教育活動全体を通じて行うことが大切である。しかし実際には、学年相応の学習ができる児童生徒には、自立活動との密接な関連が弱いまま各教科等の指導が行われている現状がある。教師が、特別支援学級での各教科等の指導の中でも、一人一人の自立活動のねらいに沿った指導を集団の中で行うことにより、児童生徒は自立と社会参加に大切な力を教育活動全体で意図的・計画的に伸ばしていくことができると考えられる。

#### 4 主題設定の理由

特別支援部会における審議の取りまとめ<sup>8</sup>(2016)では、今回の学習指導要領の改訂にあたり自立活動の改善・充実の方向性が示された。前回の改訂の成果としては、「人間関係の形成」が設けられ、学校教育のあらゆる機会を通じて、重度・重複障害や発達障害を含む多様な障害に応じた指導が展開されたことや、幼児児童生徒が発達の進んでいる側面を積極的に伸ばそうとする態度が育成されたことが挙げられた。しかし、「自己を理解したり得意不得意を伝えたりする力」「進路先で人間関係を築く力」等、卒業後に必要となる力が十分に育っていないことが指摘されている。また、「実態把握から導かれた指導目標と到達状況の乖離」「自立活動と各教科等との関連を図った指導が十分でない」といった課題も挙げられている。教育活動全体を通じて、集団の中で人との適切なかかわりを身に付けていくことは、自立と社会参加に向けた大切な力である。本研究では、研究を進めるにあたり自立と社会参加に大切な力とは何かを検討した。

- ・やりたいことやNOのサインを表情、言葉などの自分に合った表出方法で相手に伝える **自己表現力**
- ・自分の思いや考えを言葉にし、相手の話も聞くことができる **コミュニケーション力**
- ・将来、介助を受ける際も何をしたいのか自分の意志で決定する **自己選択力・自己決定力**
- ・自分の得意、不得意や障害の特性を肯定的に受けとめる **自己理解力**
- ・自分とは考え方の違う他者を寛容に受け止める **他者理解力**
- ・自分の気持ちを表現したり、時には抑制したりと感情をコントロールする **自己統制力**
- ・自分の状況が分かり、助けを求めたり困ったこと伝えたりする **援助要請力**
- ・最後まで決められたことを行う **集中力**
- ・余暇を楽しんだり、働いたりする活動へ向かう **行動力** など

上記の自立と社会参加に大切な力は、学校の教育活動全体を通じて見られる姿である。これらの力はSST等で技術・技能として学ぶだけでは、教育活動の中で習得したことを学校生活や日常生活の中で活用し、発揮する力を身に付けることは難しい。しかし、各教科等の指導の中では、学習課題を通じてペアやグループと一緒に考え、協力し、活動することによって、他者とのかかわりを喜べるような経験を積み重ねていくことができる。その力こそが、社会とのつながりや適応力となり、自己有用感を味わい、自立と社会参加に大切な力となっていくのではないか。将来を見据えて、児童生徒の保護者や関係機関と連携を取り合い、段階的・継続的に力を養っていくことが重要ではないかと考えた。

そこで本研究では、教育活動全体を通じて、集団の中で人との適切なかかわりを身に付けていくことは、自立と社会参加に向けた大切な力のひとつと捉えた。自立と社会参加に大切な力を育むために特別支

<sup>8</sup> 文部科学省教育課程部会 「特別支援部会における審議の取りまとめ」 平成28年8月

援学級の集団を活かした指導方法の在り方を検討する。自立活動と各教科等との密接に関連づけることによって、特別支援学級での各教科等の指導の中で、社会性の基礎を集団場面でも伸ばしていくことができると考え、研究主題を次のように設定した。

自立活動と各教科等との関連を意識した授業づくり  
 — 自立と社会参加に向けた特別支援学級での児童生徒のかかわりを通して —

## II 研究の内容

### 1 研究の対象

本研究は、対象を市内の小学校及び中学校の特別支援学級とした。

対象児童・対象生徒(以下対象児)は、小学1年生のAさん、中学2年生のBさんとする。他者に無関心ではなく、人のかかわりに関心があり、かかわりたい思いがある児童生徒を対象とした。

### 2 研究の方法

#### (1) 実態把握

個々につけたい力を絞り、適切な目標を設定するためには、児童生徒の実態把握をすることが必要になる。実態把握をするためには、個別の教育支援計画(以下サポートノート)や日々の行動観察、保護者からの聞き取り等、様々な情報を収集していくことが大切である。本研究では、以下のように実態把握を行った。

- ①授業参観し、対象児の行動観察を行った。
- ②「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」の指導内容を参考に本研究で自立活動内容表を作成した(図4)。サポートノートは、毎時間の指導の前後に見返すには情報が多いため、特別支援学級の自立活動を意識して授業を考える教師同士の話し合いの際には、この内容表が適していると考えた。

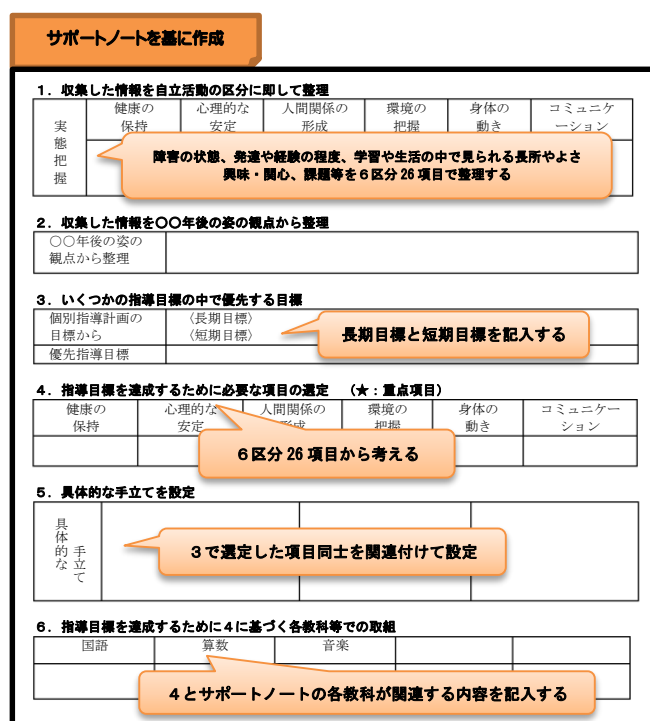


図4 自立活動内容表

- ③霜田<sup>9</sup>(2015)のソーシャルスキルの成立過程を基に、本研究でかかわりの成立過程を作成した。
- ④実態把握や指導目標を達成するために必要な項目の設定に、「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」の項目や愛知県三好特別支援学校「自立活動お助けシート」<sup>10</sup>を参考に本研究で作成した自立活動チェック表を用いて、指導の優先順位を決めた(図5)。

- A: 支援なしでできる
- B: 支援などがあればできる
- C: 支援があってもできない

<sup>9</sup> 霜田浩信 「日本特殊教育学会 第53回大会」で行った自主シンポジウムの資料より 平成26年9月

<sup>10</sup> 愛知県三好特別支援学校 「自立活動お助けシート」

[http://www.miyoshi-sh.aichi-c.ed.jp/Web\\_siryou/shou\\_otasukesiito.pdf](http://www.miyoshi-sh.aichi-c.ed.jp/Web_siryou/shou_otasukesiito.pdf) 平成29年6月5日

メモ欄：どのような状況・状態のときにできるのか、できないのか等を記入する。

3 人間関係の形成		【 】さん笑顔チェック	
記入日	日 年 月	A B C	F (どのような状況・状態なのか)
A: 支援なしでできる B: 支援があればできる C: 支援があってもできない			
① 他者とのかかわりの基礎に関すること・・・信頼感をもち、他者からの働きかけを受け止め、応ずる			
・特定の教師からの合図や指示等の働きかけで行動できる	A B C		
・特定の教師以外の教師からの合図や指示で行動できる	A B C		
・褒められていることがわかる	A B C		
・教師への適切な注意をひく行動がある	A B C		
・自分から他者へ働きかけができる	A B C		
② 他者の意図や感情の理解に関すること・・・他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとる			
・かかわる相手に顔や視線など注意をむけることができる	A B C		
・相手の表情や気持ちを感じとり、一緒に活動できる	A B C		
・相手の「やめて」等の言葉や表情、身振りで行動を変更できる	A B C		

図5 自立活動チェック表(一部抜粋)

## (2) 授業づくりの3つの柱

集団で取り組むよさがあり、児童生徒が達成感や満足感を味わえる授業を行うためには、一緒に学ぶ友達や教師のかかわり、教材・教具等につ

いても検討する必要があると考えた。本研究では、以下のように授業づくりの視点を設定した。更に、3つの柱に留意して各教科と自立活動を関連させた指導計画と本時の展開を検討した。小学校では7月(音楽)と12月(図画工作)、中学校では6月(国語)と11月(体育)に授業を設定し、指導案上に自立活動における支援の手立てと評価の観点を記載した。

環 境	学 習 内 容	活 動
<p>① 集中できる場</p> <p>ア 教室環境が整えられ、掲示物等の刺激は最小限である。</p> <p>イ 集中して活動しやすい動線である。</p> <p>ウ 活動場所が明確である。</p> <p>エ 目標に沿い、座席等が配慮されている。</p> <p>オ 教室内(活動場所)が整えられている。</p> <p>カ クールダウンの場所が用意されている。</p> <p>② 教材・教具</p> <p>ア 児童生徒の興味・関心に基づいた教材・教具である。</p> <p>イ 実態に応じて教材・教具が扱いやすく工夫されている。</p> <p>ウ 児童生徒が1人で使うもの、複数人で扱うものと状況に応じて工夫されている。</p> <p>エ 児童生徒が安全に扱える教材・教具である。</p> <p>オ 児童生徒が教材・教具を何のために使うのか、わかるものである。</p> <p>③ 教師</p> <p>ア 教師は、児童生徒の行動やよい発言を褒め価値づけしている。</p> <p>イ 予想される不適切な行動に対する事前の言葉かけがされている。</p> <p>ウ 予想される児童生徒の困り感への対応が、教師間で役割分担されている。</p> <p>エ 不適切な行動に対する支援が注意だけでなく、正しい行動を示している。</p> <p>オ 教師の言葉かけが適切である。見守ったり、待ったりしている。</p> <p>カ 教師は児童生徒の表出を捉え、他の児童生徒につなげている。</p> <p>キ 教師と一緒に活動し、児童生徒のモデルとなるかかわりをしている。</p>	<p>① 学習のねらいと振り返り</p> <p>ア 集団で取り組むよさがある活動である。</p> <p>イ 児童生徒にねらいがわかるように示している。</p> <p>ウ 自分のよさやがんばり等を振り返る機会(自己評価)がある。</p> <p>エ 友達のよいところを知るまたは、考える機会(他己評価)がある。</p> <p>② 学習の見通し</p> <p>ア これまで取り組んできた学習活動を踏まえた授業である。</p> <p>イ 学習の流れがパターン化され、スモールステップで取り組んでいる。</p> <p>ウ 学習の手順や方法がわかりやすい。または、わかるように示している。</p> <p>エ 活動の場所や内容等見通しがもてる工夫がされている。</p> <p>オ タイマーで示す等、活動時間が明確である。</p> <p>③ 学習のルールや約束</p> <p>ア 約束やルールが明確である。</p> <p>イ 注意が向くような工夫が事前にされている。</p> <p>ウ ペアやグループでの話合いの場が設定されている。</p> <p>エ 個々に活動する時間とペアやグループで活動する時間が設定されている。</p> <p>オ 教師は、児童生徒が約束やルールを振り返るような言葉かけをしている。</p>	<p>① 児童生徒同士の活動</p> <p>ア 児童生徒は、何について話合いをしているのか理解している。</p> <p>イ 友達の話を聞く時間があり、児童生徒は注目している。</p> <p>ウ 友達に話しかけている。または、発言する機会を設定している。</p> <p>エ 待ったり、順番を守ったりする機会がある。</p> <p>オ 協力したり、助け合ったりする機会がある。</p> <p>カ 一人一人の活動量が確保されている。</p> <p>② 主体的な活動</p> <p>ア 一人で課題を解決する時間を設けている。</p> <p>イ 考えたり、試したり、工夫したりできる活動である。</p> <p>ウ 取り組みやすい(易しすぎず難しすぎない)活動が中心である。</p> <p>エ 児童生徒の興味・関心等、実態に基づいた活動である。</p> <p>オ 児童生徒に応じた役割がある。</p> <p>カ 自己選択、自己決定ができる活動である。</p> <p>キ 児童生徒が「できた」「わかった」と思える活動である。</p>

## (3) 指導の振り返り

授業の終了後には、観察者は見取ったことを授業づくりの3つの柱に沿って、本研究で作成した授業観察シートをもとに検証した。

## 3 研究の実際と考察

### <小学校の研究>

集団の構成	学級児童数 24名：1年5名 2年6名 3年4名 4年8名 5年1名 学級教師数 4名
集団での学習の取組	朝の会(毎日)・自立活動(毎日)・体育・音楽・図画工作・外国語活動・生活単元

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流や単元内容に応じて参加</li> <li>・話す、聞くスキルやソーシャルスキル等の獲得をめざす活動</li> <li>・楽しい気持ちを共有できるような単元の設定</li> </ul>
特別支援学級全体の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活に慣れた2年生は、1年生の面倒をみることがある。</li> <li>・教師とのかかわりを好む児童が多い。</li> <li>・発達段階の開きが大きく、個々の特性にばらつきがみられる。</li> <li>・ルールを守ることが難しい児童が多い。</li> </ul>

### (1) 対象児Aさんの実態把握のための授業参観

6月22日 国語「ぶんをつくらう(「だれが」「なにをした」)」(4/4) 1年2名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aさんが考えた文中の「そら」という言葉の意味が分からない友達に上と指さして教えたが、理解していないと気付いた。Aさんが友達を窓まで連れていき、「くものところ」「おひさまがでていところ」と指で示して教えた。作った文は「〇〇さんが そらで へりをこわした」だった。友達が考える順番になると、注意が散漫になり、机に足をのせていた。</li> </ul>
7月4日 中休み 1～4年5名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内で大型絵本「はらぺこあおむし」を数名と読む。Aさんのペースで歌いながら楽しそうに読んでいた。他児からの「(歌を)やめて」等の声も耳に入らず、自分のペースでページをめくり続けた。</li> </ul>

### (2) Aさんの実態把握から自立活動の重点項目を決定し、自立活動内容表を作成(表1)

表1 Aさんの自立活動内容表

1. 収集した情報を自立活動の区分に即して整理						
実 態 把 握	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体温調整が苦手で、暑がりだが、季節にあった服装を選ぶことができる。</li> <li>・洋服や靴が濡れるのが苦手だが、自分で着替えることができる。</li> <li>・あまり運動は好きではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衝動的、突発的。</li> <li>・電車の本やレゴが好きである。</li> <li>・自分の好きな分野の話詳しく説明することができる。</li> <li>・興味のあることには、粘り強く取り組むことができる。</li> <li>・着席時に椅子を揺らして、上履きを脱いでしまうことがあるが、好きな活動には集中して静かに取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士より大人とのやりとりを好む。</li> <li>・基本的には優しいが、自分の思いを優先してしまい、相手の気持ちを理解しにくいことがある。</li> <li>・集団で活動するより、自由に一人で行動することを好む。</li> <li>・言葉より先に手がでてしまうことがあり、衝動的な行動を相手にしてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を描くこと、文字を書くことが苦手だが興味のあることには楽しんで取り組むことができる。</li> <li>・短い言葉で一つずつ指示を出すと理解できる。</li> <li>・朝会、集会等の静かにしなくてはならない場面でも大きな声で話すことがある。</li> <li>・興味のないことや見通しが持てないこと、待つことが苦手である。</li> <li>・新しいもの等、変化に気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心旺盛である。</li> <li>・興味のない活動では、落ち着きがなく常に身体が動いていて、突発的な行動をする。</li> <li>・初めてのことに対して、呑み込みが早い。</li> <li>・やってみたくいことがあるとその行動をとらずにはいられない。</li> <li>・道具を使用するのが不器用で手と目の協応ができないためか苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親疎の区別がつかないが、人懐こく、物おしせず誰とでも話ができる。</li> <li>・言葉が豊かで、知識がある。</li> <li>・会話が一方的な時がある。</li> <li>・困ったことに直面したときに、近くの教師に伝えることができる。</li> </ul>
2. 収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理 <span style="float:right">* 以下各項目末尾の( )は、自立活動の区分を示す。</span>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年後の中学校進学を見据えて特別支援学級の退級を視野に入れ、交流の時間を増やしていく。(心、人、環、コ)</li> <li>・高い理解力を生かして学校生活を意欲的に送るため、集団のルールや約束を守って過ごすことができる。(心、環)</li> <li>・相手の話を聞いたり気持ちを考えたりできるよう、教師が本人の話をよく聞く。(人、コ)</li> </ul>						
3. いくつかの指導目標の中で優先する目標						
個別指導計画の目標から	(年間)集団の活動に落ち着いて参加することができる。 (前期)集団の雰囲気や様々なルールを知る。 約束した時間までや約束した活動が終わるまで、落ち着いて参加することができる。 (後期)様々なきまりやルールを意識して活動することができる。					
優先指導目標	集団で学習するという雰囲気がわかり、学習の中の様々なルールを知り、友達とかかわることができる。					
4. 指導目標を達成するために必要な項目の選定 (★: 重点項目)						
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の調整	身体の動き	コミュニケーション	
	★(1)情緒の安定に関すること	★(2)他者の意図や感情の理解に関すること ★(4)集団への参加の基礎に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること		★(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること	

5. 具体的な手立てを設定

<p>具体的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衝動的な行動に出てしまったときは、丁寧に思いを聞き取り気持ちに寄り添う。なぜいけないのか、なるべく短い言葉で説明し、自分の行動を振り返るようにする。(人-(2)、コ-(5))</li> <li>衝動的な行動が予測できそうなときは、前もって言葉をかけ、どのような行動なら良いのが教師と一緒に考える。(人-(2)、環-(4)、コ-(5))</li> <li>行動を我慢し、やるべきことを優先させた時には、具体的に褒める。(心-(1)、環-(4)、コ-(5))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約束を視覚的に示し、時々確認できるようにし、ルールを守る経験を積むようにする。(人-(4)、コ-(5))</li> <li>授業の前に約束を確認するようにする。(心-(1)、人-(4))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が適切なやりとりのモデルを示す。(人-(2)、コ-(5))</li> <li>教師が思いや願いを聞き、寄り添い適切な行動がとれた時には好きな活動を保障する。(心-(1)、人-(2))</li> <li>少人数の安心できる集団で、人とかわり、協力しながら進める課題に取り組む。(心-(1)、人-(4))</li> </ul>
----------------	---	---	--

6. 指導目標を達成するために4に基づく各教科等での取組

国語	体育	図画工作	音楽	自立活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本等の読み物を使い、登場人物の気持ちを読み取ることが出来る学習を計画する。</li> <li>書く意欲をもてるように量や書く道具を調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の運動の基本的な動きを知り、友達と一緒に行動できるようにする。</li> <li>運動量を確保し、気持ちを発散できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵の具等、興味のある画材や素材を使って、伸び伸びと造形活動に取り組めるようにする。</li> <li>体全体の感覚や技能等を働かせるような活動を計画する。</li> <li>友達の作品を鑑賞する場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな楽器を存分に演奏する時間を保障する。</li> <li>好きな曲をみんなで歌ったり演奏したりする。</li> <li>音楽を聴いてリズムに合わせてたり、友達と一緒に活動したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約束は視覚的に提示する。</li> <li>様々なルールがあるゲーム活動やソーシャルスキルかるた、トレーニング絵カードを用いた SST の学習を行う。</li> <li>個別の課題に取り組む。</li> </ul>

(3) Aさんのかかわりの成立過程(図6)

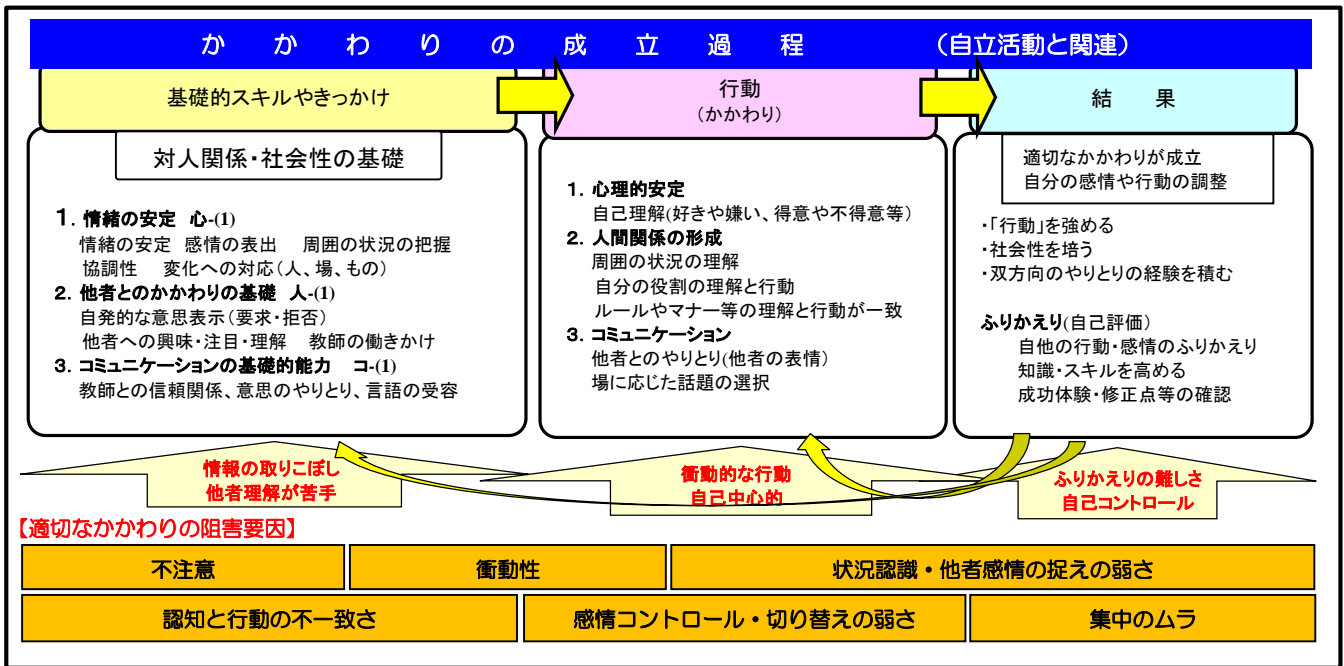


図6 Aさんのかかわりの成立過程

Aさんの「かかわりが成立する」ということは、例えば、自分の思いを伝えてから一緒に行動したり、他者の思いを知って、自分の行動を調整しようとしたりすることである。しかし、自分のやりたいことを優先して行動したり、自分の思いを受け入れてくれる相手とかかわりを求めるあまり、かかわる相手を選んでしまったりすることは適切なかかわりとはいえない。

本研究では、これらの実態把握からAさんの自立活動の課題を、「人とかかわりたい気持ちは強いが、他者とのようにかかわってよいのか分からないため、自分の気持ちをコントロールできず、相手に不快感をさせてしまうことがある。」と考えた。検証授業の1回目はAさんを受け入れてくれる安心できる穏やかな低学年集団で行い、2回目は1年生から4年生まで幅を広げた異学年集団と段階を踏み、



適切なかかわりをもてるような学習を行う。教師はAさんが考えて行動できた場面を具体的にわかりやすい言葉で認めて褒める。また、つまずきが予想されるときには、前もって言葉をかけ、適切なかかわりがとれるように支援していく。

#### (4) 小学校の検証授業と考察

##### 【7月：音楽】

- ・音楽の授業は、月に4回程度時間割に位置づけ、和太鼓やリトミックを中心に行っている。身体を動かしながらリズムを感じることによって、音楽を通して心情を豊かにすることをめざしている。

##### ①指導計画

\*以下、自立活動の区分と項目を明記する。

題材目標	・音楽に合わせて身体を動かしたり、リズム遊びを楽しんだりする。 ・音楽を通して、みんなと一緒に活動する楽しさや、やりとりの心地よさを感じる。
関連する自立活動の目標	・友達と一緒に活動し、かかわりを広げようとする。人-(1)

	第1次 (4月～6月)	第2次 (7月～11月)	第3次 (12月～3月)
題材名	「一緒にやると 楽しいね」		
指導計画	<b>○リトミック活動の授業に慣れる</b> 「校歌をおぼえよう」 ・メロディーを覚える。 「ことばでリズム」 ・ことばを使って音楽を作って、手をたたく。 「たいこをたたこう」 ・リズムを意識してたたく。 ・教師とのやりとりを楽しむ。 「みんなでかンぱいしよう」 ・ハンドベルの鳴らし方を知る。 ・友達と鳴らすハンドベルの響きを楽しむ。	<b>○リトミック活動を楽しむ</b> 「校歌をおぼえよう」 ・歌詞や手話を知る。 「たいこをたたこう」 ・リズムを意識してたたく。 ・友達とのやりとりを楽しむ。 「ロープ鈴をならそう」 ・音の違いを聞き分けて、曲に合わせてロープ鈴を鳴らす。 ・みんなと一緒にロープ鈴を持って鳴らす。 「ムーブメントスカーフを楽しもう」 ・みんなと一緒に活動する。 ・曲の特徴や変化に気付き、それに合わせたり自由にムーブメントスカーフを動かしたりする。	<b>○みんなとリトミック活動を楽しみながら取り組む</b> 「校歌をおぼえよう」 ・歌詞と手話を覚える。 「卒業と進級を祝う会の練習をしよう」 ・みんなと一緒にダンスを行う。 ・音楽に合わせて身体を動かす。 「ハンドベル合奏をしよう」 ・友達と鳴らすベルの響きを楽しむ。 「バルーンを楽しもう」 ・音楽を感じながらバルーンを動かしたり、音に合わせてバルーンをみんなで動かしたりする。

##### ②本時の学習(2/9) \*1年生から3年生までの11名で学習を展開

全体の目標	・楽しく歌ったり演奏したりして、音楽への興味・関心をもつ。(小学校・音楽) 1, 2学年 ・友達と一緒に活動する楽しさを味わう。(自立活動) 人-(1)、人-(4)
Aさんの目標	・音楽のリズムに合わせて動くことができる。(小学校・音楽) 1, 2学年 ・友達を意識しながら、一緒に活動する。(自立活動) 人-(4)

学習活動 *(自立と社会参加に大切な力)	教師のかかわり 手立て	教材等	Aさんの自立活動における 支援の手立て	Aさんの評価の観点 かかわりの姿
1. 「校歌」を歌う。	・歌いながら授業の始まりを知らせる。	CD CDデッキ		
2. あいさつをする。	・予定が項目ごとに書かれた板書カードをホワイトボードに貼り、授業の見通しを持てるようにする。	板書カード ホワイトボード	・視覚的に提示し見通しをもてるようにする。心-(1)	・ホワイトボードを見て、活動の流れを理解しているか。
3. 「はじまりのうた」を歌う。 ・自分の名前が呼ばれたら返事をする。	・一人ずつ歌に合わせて名前を呼ぶ。 ・何と呼ばれたいのか聞く。	電子ピアノ		
4. 「たいこをたたこうに合わせてタンブリンをたたく」。 ・友達を誘う。 ・タンブリンを一人が動かし、もう一人が曲に合わせて	・二人ずつ前に呼び、タンブリンを渡す。 ・曲の速さに合わせてリズムをたたけるようにする。	電子ピアノ タンブリン	・友達を意識しながら、タンブリンを動かすよう言葉をかける。人-(2) ・活動に集中できないときやルールが守れないとき	・友達を見てタンブリンを動かしているか。

<p>てたたく。 * (自己選択力・自己決定力)</p> <p>5. ロープ鈴を鳴らす。 ・みんなでロープ鈴を持ち、音楽に合わせて鈴を鳴らす。</p> <p>6. 音楽に合わせてスカーフで遊ぶ。 ・二人でスカーフを投げ合う。 ・スカーフに乗せられたお手玉を落とさないように運ぶ。 ・スカーフをつなぎ、音楽に合わせて電車ごっこをする。</p> <p>7. クールダウンする。 ・静かに横になる。</p> <p>8. あいさつをする。</p>	<p>・タンブリンがたたきにくそうな時には、たたきやすいところにタンブリンを出すよう言葉をかける。</p> <p>・全員がロープ鈴を持ったことを確認してから、音の大きさに変化を付けて演奏する。</p> <p>・教師が決めたペアで音楽に合わせて、スカーフをキャッチできるようにする。</p> <p>・一人の活動にならないように言葉かけややりとりのモデルを示す。</p> <p>・教室を暗くし、床に寝転ぶよう言葉をかける。</p>	<p>電子ピアノ ロープ鈴</p> <p>CD ムーブメントスカーフ</p> <p>CD タオル</p>	<p>は、短い言葉でよい行動を伝える。心-(2)</p> <p>・みんなと一つの楽器を鳴らす楽しさを感じられる教具を用意する。人-(4)</p> <p>・友達と協力するよう言葉をかける。コ-(5)</p> <p>・友達を意識するよう言葉をかける。人-(2)</p> <p>・気持ちを切り替えるために部屋を暗くする。心-(1)</p>	<p>・ルールを守って活動に参加しているか。</p> <p>・友達と一緒に鈴を鳴らしているか。</p> <p>・友達と一緒にスカーフを動かしているか。</p> <p>・みんなと行う活動に取り組んでいるか。</p>
---	---	--	--	--

### ③授業づくりの3つの柱からの考察

環境	<p>今回の授業でのAさんは、安心した表情で集中が大きく途切れることなく、継続して活動に参加することができていた。それは、教師が日頃の観察から座席の配置の工夫や隣になる児童に配慮することが必要だと感じ、隣に刺激し合わない児童を教師が座席指定したことで、Aさんの安心感につながったと考えられる(①エ)。また、興味・関心のある教材を取り入れ、全員でロープ鈴を鳴らす、ムーブメントスカーフキャッチ等、様々な形態の活動を組み合わせたことで、集中して活動に取り組む姿が見られた(②ア)。電車ごっこでは、他者を意識せず、自分の世界に入ってしまう、友達が転んでしまう場面が見られた。教師は注意するのではなく、「運転手は、乗客の安全を守るのも大事だよ」と、失敗から学んでいくような言葉かけをしたことで、その後は、友達に気を配る様子が見られた。電車の運転手を自ら交代する等、適切なかかわりができた時には、その場で大いに褒めて価値づけしたことで、他のグループでも快く交代する姿が見られた(③ア)。活動に夢中になり自分本位な行動を、教師が手本を示しながら説明したり、そばにいて支援や言葉かけで行動を正したりすることで、適切なかかわりの方法や手段をAさんも一緒に実践することができたと考えられた(③ウ)。</p>
学習内容	<p>2人組で電子ピアノのリズムに合わせてタンブリンをたたき活動では、Aさんの音楽の目標である「音楽のリズムに合わせて動くことができる」に、ムーブメントスカーフを用いた活動では、自立活動で育む力である「友達と一緒に活動することを楽しむ」に迫ることができた。それぞれの活動のねらいが明確であることは、児童が活動しやすい楽しい学習につながっていく(①ア)。また、学習の方法やルールがわかりやすいこと、学級の特徴的な学習活動(繰り返し変化をつけて積み上げていきたい単元)と位置付けて継続的に行ってきたことから、自分から本時の流れのカードを確認して学習の見通しをもつ等、主体的に取り組む様子が見られた(②アイウ)。</p>
活動	<p>ペアでタンブリンをたたき時には、自分の番が来るまで期待した表情で待つことができた。一緒に活動したい友達を誘うこと、待つこと、順番を守る機会につながっていた(①エ)。ペアやグループ活動を取り入れたことにより、自分が工夫して動かしたタンブリンをたたいてもらう嬉しさ、電車ごっこを友達と一緒にやる喜びを経験し、人とかかわる楽しさを味わうことができるようにすることができた(①エ)。上級生は下級生の行動を見守る、待つという心の育ちも見られた(②エ)。</p>

### 【12月：図画工作】

- ・図画工作の授業は、月に1回程度行っている。手指機能訓練を兼ねて、はさみを使った造形活動に多く取り組んでいる。材料があると自分で工夫して工作を楽しむ児童もいる。

#### ①指導計画

題材のねらい	<p>・フィンガーペイントの素材や活動を楽しみ、「ゆめのクリスマスプレゼント」という言葉からイメージした形を色の使い方等を工夫しながら絵に表わす。</p> <p>・感じたことを話したり友達の話の聞いたりして、自分たちの作品を鑑賞する。</p>
関連する自立活動の目標	<p>・手指の感覚を刺激することで心をリラックスさせ情緒の安定をはかる。心-(1)、環-(1)</p> <p>・造形活動を通して、自分の思いを表現する。人-(3)、コ-(5)</p> <p>・鑑賞の活動を通して、友達のことに関心をもつ。人-(2)、人-(4)</p>

	第1次	第2次	第3次
指導計画	<p>○「巨大クリスマスツリー」を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の画用紙に指や手を使って、白い絵の具で雪を描き、土台のクリスマスツリーづくりを行う。</li> <li>・画用紙をはさみで三角に切り、つなげて大きなクリスマスツリーにする。</li> </ul>	<p>○「ゆめのクリスマスプレゼント」を絵に表わそう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめのクリスマスプレゼントを描いて、巨大ツリーに飾る。</li> </ul>	<p>○友達のプレゼントのすてきなところを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめのクリスマスプレゼントを見合い、友達の作品の素敵などを伝える。</li> <li>・巨大クリスマスツリーにプレゼントを飾る。</li> </ul>

②本時の学習(3/4) \*1年生から4年生までの17名で学習を展開

全体の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手や指を使って、自分の思いを色や形で「ゆめのクリスマスプレゼント」に表わしている。</li> <li>・自分や友達の作品を見合い、作品の面白さやよさを感じ取っている。(小学校・図画工作1, 2年)</li> <li>・自分の思いを表現したり、友達の作品に興味をもったりしている。(自立活動)人-(2)、コ-(4)</li> </ul>
Aさんの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の具の色の混ざり具合やさわった感触を楽しみながら、自分の描きたいことをイメージし、表現しようとしている。</li> <li>・友達の作品のよさや工夫を見つけようとしている。</li> <li>・伸び伸びと造形活動を楽しむことで心の安定を図っている。(自立活動)心-(1)</li> <li>・鑑賞活動を通して、他者に関心をもっている。(自立活動)人-(4)</li> </ul>

学習活動 * (自立と社会参加に大切な力)	教師のかかわり 手立て	Aさんの自立活動における 支援の手立て	Aさんの評価の観点 かかわりの姿
<p>1. 始めのあいさつをする。</p> <p>2. 本時の流れやねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ゆめのクリスマスプレゼントを描こう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こんなプレゼントがあったらいいな」と思うものを描くことを投げかけ、活動のイメージをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>(約束)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配られた自分用の絵の具を使う。</li> <li>・手や指の汚れが気になったら、濡れタオルで拭く。</li> <li>・手は描き終わった後に洗う。 ・文字は書かない。</li> </ul> </div> <p>3. 準備・活動を行う。 * (自己表現力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめのクリスマスプレゼントを描く。</li> <li>・ベースとなる好きな色の画用紙を選ぶ。</li> <li>・自分の思いに合わせて色や形を工夫して描く。</li> </ul> <p>4. 振り返りをする。 ・仕上がった作品を見合う。 * (他者意識)</p> <p>5. 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れやめあて、約束をホワイトボードに提示する。</li> <li>・クリスマスツリーに飾ることを伝える。</li> <li>・どんなプレゼントにするか、例を出したり、子どもたちから聞き出ししたりして、発想のヒントになるようにする。</li> <li>・子どものイメージを大切にしながら、思いが広がるように色や形を工夫するよう言葉かけする。</li> <li>・全員が好きな色を選ぶように画用紙を十分に用意する。</li> <li>・一人ずつ指絵の具を用意する。</li> <li>・試したり描いたりする活動を楽しめるように作品に共感するように。</li> <li>・子どものイメージを大切にしながら、思いが広がるよう言葉かけする。</li> <li>・3～4人の小グループに分かれて、作品を見合う。</li> <li>・友達の作品の素敵などところを見つけることを伝える。色や形のよさに気付かせる。</li> <li>・それぞれの思いが伝わるように共感し認め、教師が言葉を補足して伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動やめあて、約束を提示する。心-(2)</li> <li>・考えをみんなに紹介することで描くことへの意欲につなげる。コ-(5)</li> <li>・自由な発想で造形活動を行うような言葉をかける。心-(1)</li> <li>・活動のよい刺激になる児童の側に座らせる。人-(2)</li> <li>・描き終わったら、片づけるよう言葉かけする。人-(4)</li> <li>・友達の作品のよさや面白さを感じ取りやすいように小グループごとに鑑賞する。人-(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明する人を見て、話を聞いているか。</li> <li>・自分のイメージを言葉にしていたか。</li> <li>・イメージしたことを絵で表そうとしているか。</li> <li>・約束を意識しているか。</li> <li>・何を作ったのか発表できているか。</li> <li>・友達の作品のよさに気が付いたり発表を聞いたりしているか。</li> <li>・自分の思いを友達に伝えているか。</li> </ul>

③授業づくりの3つの柱からの考察

環境	<p>Aさんは絵の具の混色に夢中になりながらも一定時間集中して作品を描くことができた。Aさん以外の児童も、追加の絵の具を取りに行く以外の離席はほとんどなく活動に取り組んでいた(②ア)。座席を3～4人班の形態にしたことで、班の友達とかかわりつつも集中して取り組める環境設定ができたと考</p>
----	---

	える(①エ)。また、指や手を動かして模様をつけたり、指先で丁寧に色を塗ったりと、児童が試しながら絵のイメージを広げていく姿も見られた。児童が扱いやすい絵の具の感触・硬さのものを選んだことも児童の活動を助ける手立てとなった。また、5色の絵の具を個々のパレットに準備し、一人ずつ使えるように用意したことで活動がスムーズに行っていた(②イウエオ)。
学習内容	Aさんは、パレットが配られると真っ先に混色を始めていた。何度か取り組んできた学習内容や材料なので、道具を扱うこと、手が汚れることへの抵抗は少ないように感じた(②イ)。配る色の種類を前回より2色増やしたことで、新しい色を作り出すことに興味をもって取り組むことや、描きたいものの新しいイメージを膨らませることができたのではないだろうか(②イ)。「ゆめのプレゼント」を描く時、少し迷っている児童もいたが、多くの児童が自分のイメージしたものを表現することができていた。導入で行った教師の例示がそのイメージを広げ、「あったらいいな」という児童の作りたい思いを引き出す手立てとなっていた(②ウ)。また、学習のルールや約束については、TVに活動の約束を示したことで、活動の途中にも確認しながら取り組むことができた(③ア)。
活動	一人で作ることが好きなAさんも、同じ班の友達と自分が作った色や描いているものについてやりとりする様子が見られた。自然と友達の作品を見てよいところを伝えたり、筆等の用具を使ったりと活動に広がりが出ていた。3～4人の小グループでの活動が児童同士のかかわりをより豊かにしたと考えられる(①ア)。

### 《Aさんの変容》

<p>Aさんは何かしてほしいときには、身近な大人へのかかわりを求める姿が見られる。自分の思いが先に立ち相手の気持ちを押し量れないことがある。教師は、Aさんの好きな活動を友達と一緒にいる中で、交代することや順番を守ること等友達への意識が高められるような活動内容を考えた。これが、自立活動の優先指導目標である「集団で学習するという雰囲気がわかり、学習の中の様々なルールを知り、友達とかかわることができる」の達成に近づいたと考えられる。学習場面で「やってみたい」と思える内容を取り入れ、手順や決まりを事前に伝えたり、テレビに約束を提示したりすることで、Aさんは主体的に活動し、教師や友達を意識して取り組むことができるようになってきた。教師が意識的に、知識が豊富でユーモアがあるAさんをみんなの前で褒めたり認めたりすることで、周囲の児童がAさんのよさに気づき始めた。特別支援学級での低学年給食等、かかわることが多い低学年は、Aさんの面白くて優しい人柄を知り、更にかかわりが増えた。Aさん自身も友達とかかわることが、相手の意図や周りの状況を考えられるようになってきた。Aさんは、休み時間に鬼ごっこや将棋を友達と一緒にやることが増えたり、本を読むときにも「一緒に読もう」と誘ったりと自分から友達とかかわることが増えてきた。</p>
---

### ＜中学校の研究＞

集団の構成	学級生徒数 16名：1年3名 2年4名 3年9名 学級教師数 4名
集団での学習の取組	朝の会(毎日)・帰りの会(毎日)・国語(2時間)・算数(1時間)・体育・英語・社会・音楽・家庭科・美術・技術・作業・自立活動 ・一部の生徒は交流に参加するが、できる限り全学年で行う。 ・ソーシャルスキルを意識した学習が多い。 ・日常生活に結び付けた作業学習等を行うようにしている。
特別支援学級全体の様子	・集団活動の時間が多く、上級生が手本となるような行動がよく見られる。下級生は、上級生の行動を真似て係活動や清掃を積極的に行う。 ・休み時間も特別支援学級で過ごすことが多いためか、交友関係が良好であり全体的に仲が良い。 ・集中が続きにくい生徒が多い。 ・他者への関心が薄い生徒もいる。 ・思ったことをすぐに言葉にしてしまうため、トラブルになることもある。

#### (1) 対象児Bさんの実態把握のための授業参観

<p><b>6月20日 作業学習 「雑草の除去」</b></p> <p>・作業学習のために、他生徒は軍手をはめる等の行動に移るが、Bさんは観察者のビデオカメラに気付き様々なポーズでアピールした。教師の言葉かけでやっと活動の準備が整う。Bさんは畑の雑草除去を教師と1対1で行った。会話は、Bさんが兄弟の年齢についてほぼ一方的に話をした。教師が「他の生徒にも聞いたら」とBさんを促すと他生徒に問いかけるが、答えは求めていない様子で会話は続かなかった。</p>
<p><b>7月20日 自立活動(国語的活動) 「正しい文章にしよう」</b></p> <p>・個別学習でそれぞれの能力に応じたプリント学習を行った。Bさんは、3つの文を並び替えて正しい文章にするワークに取り組んだ。Bさんは、1枚終わるごとに教師に見せに行き、正解すると大好きなレゴの絵カードを受け取り、嬉しそうな表情を見せた。自分の席に戻る際に、遠回りをして、課題に取り組んでいる友達に視線を送ったり、周囲の注意を引く素振りを見せたりした。</p>

(2) Bさんの実態把握から自立活動の重点項目を決定し、自立活動内容表を作成(表2)

表2 Bさんの自立活動内容表

1. 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する						
実態把握	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物の好き嫌いがあまりなく、苦手な食材も食することができる。</li> <li>・寒暖に応じて衣服の調節ができる。</li> <li>・ゲームが好きである。</li> <li>・運動は興味がなく、苦手である。</li> <li>・一人で入浴できず、入らないこともある。</li> <li>・砂や土で汚れることを嫌がり過敏さもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちの切り替えが苦手だが、時間おくと高ぶった気持ちを落ち着かせることができるようになってきた。</li> <li>・環境の変化に敏感で、慣れるまでに時間がかかる。</li> <li>・レゴと特定のパスが好きである。</li> <li>・周りにからかわれたり、からかわれたと誤解したりすると、興奮し怒りを抑えることが難しい。嫌な記憶のフラッシュバックがある。</li> <li>・心細さや不安を感じると、同じ事を何度も質問することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れている人には、自分の気持ちを分かってもらおうとする表情を見せる。</li> <li>・クラスメイトや友人の名前を覚えることができる。</li> <li>・物事を自分の物差しで判断し、相手を傷つけてしまうことがある。</li> <li>・仲間意識が強く、敵だと思つと不適切な言葉を発することがある。</li> <li>・言葉やスキンシップが大げさになることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の雰囲気を感じ取り、場に応じた行動がとれることもある。</li> <li>・時間割表を見て、一日の流れがわかり、行動することができる。</li> <li>・字形が整わず、書字の困難さが見られる。</li> <li>・状況把握が難しく、場に応じた声の大きさや発言ができない。</li> <li>・聴覚から情報を得ることが得意である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな曲に合わせて、独自のダンスを好んで踊る。</li> <li>・持久力がなく、走るのが苦手である。</li> <li>・身体が硬く、ぎこちなさや不器用さが見られる。</li> <li>・道具を使った活動が苦手で、ボールから逃げることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのかかわりが好きで、自分から話しかけるが、話す内容は一方的で、会話は難しい。</li> <li>・友人が困っていると、心配して、言葉をかけることができる。</li> <li>・休み時間等、友人と過ごすことを好む。</li> </ul>
2. 収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年後の高等部卒業後の就労を見据えて、自己コントロールする力を身に付ける。(心)</li> <li>・良好な人間関係が成立するような、適切なコミュニケーション手段を身に付ける。(人、コ)</li> <li>・嫌なことがあった時に、気持ちを落ち着かせる適切な方法を身に付ける。(心)</li> </ul>						
3. いくつかの指導目標の中で優先する目標						
個別の指導計画の目標から	(年間)他者とのかかわり方を知る。 (前期)人それぞれ感じ方や意見が違うことを知る。 (後期)適切な言葉遣いで支援を要求することができる。					
優先指導目標	一定時間、決められた活動を行う。言葉でのやりとりや行動等、人との適切なかかわりを知る。					
4. 指導目標を達成するために必要な項目の選定 (★: 重点項目)						
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション	
	★(1)情緒の安定に関すること	★(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(2)感覚や認知の特性への対応に関すること		★(3)言語の形成と活用に関すること	
5. 具体的な手立てを設定						
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的に集団参加できるように活動内容を具体的に説明し、内容を把握できるようにする。(人-(3)、環-(2)、コ-(3))</li> <li>・自分の感覚で友達にかかわってしまうため、不適切な言動が見られたときには、その場で相手の気持ちや感じ方を教師が代弁する。(人-(3)、環-(2)、コ-(3))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や映像等を用いるようにすることで、外部からの情報が視覚的に入りやすいようにする。(心-(1)、環-(2))</li> <li>・本人の好きなキャラクターカードを作成し、課題が終わったら渡す。カードを本人に選ばせることで、学習意欲を高めるようにする。(心-(1)、人-(3))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中でそれぞれの考えを汲み取るようにし、自己肯定感を感じられるようにする。(心-(1))</li> <li>・授業のルールを明確に提示することで、集団の中で活動する大切さを意識できるようにする。(心-(1)、コ-(3))</li> <li>・適切なかかわりができたときには何がよかったのかを明確に伝え大いに褒める。(心-(1)、人-(3))</li> </ul>			
6. 指導目標を達成するために4に基づく各教科等での取組						
国語	美術	体育	作業	自立活動		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文では、場面を確認し、登場人物の心情を考えるようにする。</li> <li>・語彙を増やす。</li> <li>・自分と違う意見を聞き入れたり自分の考えを伝えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージを作品にし、完成させる。</li> <li>・鑑賞の時間を設定し、互いの作品を見合い、感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを簡易化する。</li> <li>・身体の使い方を知り、動きの真似をする。</li> <li>・グループ活動の中で互いに認めたりアドバイスをもらったりしながら、一緒に活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の使い方やルールを守って活動する。</li> <li>・決まっている役割を最後まで行う。</li> <li>・作業を分担し、みんなで1つのものを協力して仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動の大切さを知る。</li> <li>・生活のスキルを高める。</li> <li>・SSTのゲーム等を通して学校や日常生活で想定される課題への対処方法を身に付ける。</li> <li>・気持ちや状況を言語化できるようにする。</li> </ul>		

### (3) Bさんのかかわりの成立過程(図7)

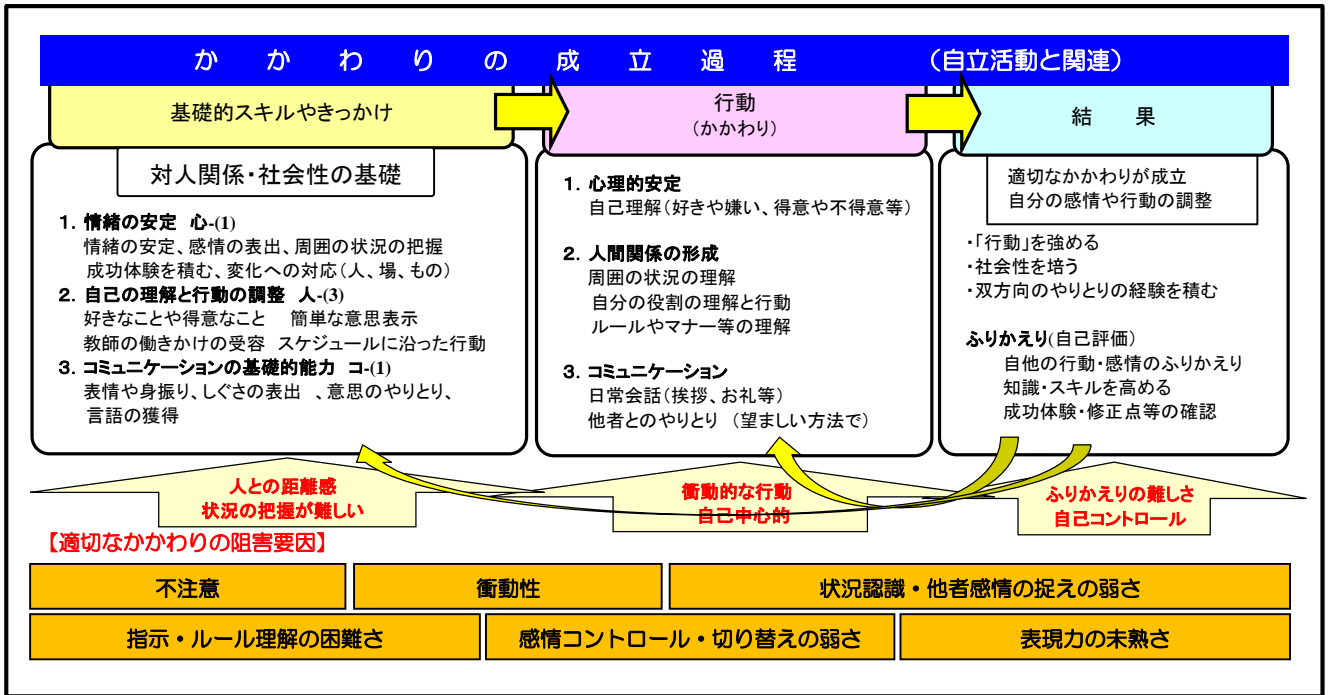


図7 Bさんのかかわりの成立過程

Bさんの「かかわりが成立する」ということは、例えば、情緒が安定していて、その場の状況に適した反応を示し、相手もそれに返してくれることである。しかし、相手が別の誰かと話している最中であるのに話しかける等、状況を捉えることが難しく自己中心的な行動になったり、相手の顔に自分の顔を極端に近づける等、距離感が掴めていなかったりすると、適切なかかわりとはいえない。

本研究では、これらの実態把握からBさんの自立活動の課題は、「全体の指示を聞いて動くことが難しいこと。人とかかわりたいという思いはある。しかし、どのように思いを表現してよいかわからず、一方的に話しかけてしまったり、過度な身体接触になってしまったりすること。」と考えた。そこで検証授業では、教師は、適切なモデルを示したりBさんの気持ちを汲み取り言語化したり周囲に受け入れられるような行動や発言ができたときには、具体的に褒めるようにした。また、興味・関心がもてる題材や教材を用い、適切な人とかかわりや思いを表出させるような支援を行った。

### (4) 中学校の検証授業と考察

#### 【6月：国語】

- ・話し合い活動では、自分の意見や考えをもち発言することができる生徒が多い。更に、自分の意見と比較するだけでなく、周囲の意見を聞き、相手の感情や考えを知ることをめざしている。

#### ①指導計画 (全7時間)

単元の目標	・相手を見たり、間の取り方等に注意したりして話すことができる。 ・話の中心に気を付けて聞くことができる。
関連する自立活動の目標	・ルールを守って他の人の意見を聞くことができる。心-(2)、人-(4)

	第1次 (時数 1)	第2次 (時数 6)
単元の流れ	○裁判を知ろう ・映像を見ることで、裁判の進行や用語を知る(裁判員制度、執行猶予、起訴等)。 ・自分の思いや考えを理由を挙げながら話す。	○人の数だけ考えがあることを知ろう ・自分の考えを発表する際には、相手を見たり間の取り方に注意したりして話す。 ・話の中心に気を付けて、他の人の意見を聞く。

②本時の学習(3/7) \* 1年生から3年生までの15名で学習を展開

全体の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の中心に気を付けて聞くことができる。(小学校・国語 第3, 4学年「話すこと・聞くこと」エ 聞くこと)</li> <li>・自分と違う考えでも、聞き入れることができる。(自立活動) 人-(3)</li> </ul>
Bさんの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな考えがあることに気付くことができる。(特別支援学校中等部・国語)</li> <li>・ルールを守って一定時間周囲の意見を聞くことができる。(自立活動) 心-(2)</li> </ul>

学習活動 * (自立と社会参加に大切な力)	教師のかかわり 手立て	Bさんの自立活動における 支援の手立て	Bさんの評価の観点 かかわりの姿
<p>1. 始めのあいさつをする。 ○本時の説明をする。 ○ルールの確認をする。</p> <p>2. 題材を知る。 「三匹のこぶた」 ○読み聞かせを聞く。</p> <p>3. ビデオを見ながら考えたことを発表する。 * (他者理解) ・証人尋問①材木の母編 母の証言から  ・証人尋問②トニー編 兄の証言から  ・被告人質問トニー編 正当防衛なのか。  ・最終弁論</p> <p>4. ふりかえりをする。 ○意見の花を確認する。</p> <p>5. 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始めが分かるように日直の号令であいさつするように促す。</li> <li>・ルールを意識しやすいように板書する。</li> <li>・興味をもてるように童話を用いる。</li> <li>・絵を見せながら絵本を読むことで話をイメージしやすくする。</li> <li>・約束を守れるようにもう一度ルールにふれる。</li> <li>・話しかけ一緒に考えることでリラックスして発表できるような雰囲気を作る。</li> <li>・意見が変わった人も発表する。友達の考えを聞いて心に変化が出たことを認める。</li> <li>・考えがまとまらず困っている場合は一緒に考えを整理し、発表できるようにまとめる。</li> <li>・着席したまま意見を自由に交換することで多くの関わりが見られるようにする。</li> <li>・意見をぶつけ合うのではなく無駄な意見はないと気づくよう教員が多くの意見を汲み取る。</li> <li>・全員が発表するよう促し、意見ではなく感想でもみんなで受け入れる雰囲気を作る。</li> <li>・白か黒でまとめるのではなく、2通りの結果にもたくさんの意見や考えがあったことを視覚的に確認できるようにする。</li> <li>・日直の号令であいさつするよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のルールを明確に提示し、集団の中で活動する大切さを伝える。心-(2)</li> <li>・絵本や映像を用いることで外部からの情報が視覚的に捉えられるようにする。心-(1)</li> <li>・不適切な発言があった時にはその場で注意し、相手の気持ちや感じ方を教師が伝える。人-(3)</li> <li>・自分の考えと違う意見でも折り合いをつけることができるよう言葉をかける。心-(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を聞いてうなずく等、反応を示しているか。</li> <li>・教師と一緒に考えようとしているか。</li> <li>・発表者の方を見ているか。</li> <li>・自分と違う意見でも不適切な言葉が出ていないか。</li> <li>・発表者の発言に拍手する等、反応を示しているか。</li> <li>・ルールを守っているか。</li> </ul>

③授業づくりの3つの柱からの考察

環境	<p>教師が意図的に座席を決めたことで、Bさんは仲の良い友達の隣で安心して学習に向かう様子が見られた(①エ)。場の構造化が図られていることや、学級全体の温かい雰囲気、発言しやすい環境を整える等、日常から積み上げていくことが大切だと考えられた。また、T2の教師が生徒の輪に入り、意見を聞く姿勢や発表者に向けた拍手のタイミングが、生徒により影響を与えていた(③キ)。教師はBさんの行動が見える位置で支援することでつぶやきをひろったり、行動を正したりとその場で評価した。生徒が言葉を通して表現する大切さや他の人にわかってもらえる喜びを味わえるようにT1の教師が言葉を足し、生徒の思いを言語化することができたことも、Bさんの友達とのかかわりの手立てとなった(③カ)。</p>
学習内容	<p>何度か行っているテレビ教材を活用した話し合い等、興味・関心のある活動を取り入れたことで集中していた(②ア)。視覚教材を用いたことで興味・関心をもって学習に取り組むことができた。発表者へ視線を送る姿やつぶやきから、話し手に注目して聞いている様子が見られた(③イ)。</p>
活動	<p>Bさんは、他の生徒の発表を集中して聞くことができず、隣の席の生徒にちょっかいを出す姿が見られた。しかし、発言したことでみんなから拍手をもらったBさんは、だんだんと発表者の方を向いて聞くことができた(①イウ)。また、上級生は自分の思いや考えを相手に伝えるために相手を見ながら間をとって話をすることや、小道具を使う等、工夫して相手に伝えようとする姿が見られた(②イ)。</p>

【11月：保健体育】

- ・保健体育の授業は週3時間、時間割に位置付けて行い、個々の体力に合わせた健康の保持を心がけている。

・集団の中でやり遂げる達成感や自己有用感等が得られるように、教師も一緒に参加し励ましている。

①指導計画

- ・領域名 球技
- ・単元名 ネット型「バドミントン」

学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントンの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができるようにする。</li> <li>・バドミントンについての自分の課題を見つけ、その解決のために友達と考えたり、工夫したことを伝えたりすることができるようにする。</li> <li>・バドミントンに積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と励まし合い、自己の力を発揮して運動することができるようにする。</li> </ul>
関連する自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と課題を解決するために話し合い、励まし合って練習することができる。コ- (2)</li> <li>・ゲームの勝敗を受け入れることができる。人- (3)</li> </ul>

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習内容・活動	準備体操 : 体操、ストレッチ、体づくり運動									
	1 : オリエンテーション (1)									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備、片付けを知る。</li> <li>・ラケットの扱い方を知る。</li> <li>・ルールを知る。</li> </ul>									
	2 : チャレンジタイムを行う。(2~4)									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習方法を工夫する。</li> <li>・サービスのやり方が分かる。</li> <li>・シャトルの落下地点に素早く移動することができる。</li> </ul> <p>目標回数を決め、ラリーを続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち方等のアドバイスをし合う。</li> </ul>									
3 : スキルアップを行う。(5~7)										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題に沿った練習方法を選ぶ。</li> </ul> <p>簡単なゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦等の話し合いに参加する。</li> </ul>										
4 : 簡単なゲームを楽しむ。(8~10)										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの作戦をたてる。</li> <li>・アドバイスし合う。</li> <li>・勝敗を受け入れる。</li> </ul>										

②本時の学習 (4/10) \* 1年生から3年生までの16名で学習を展開

全体の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手コートから飛んできたシャトルを打ち返し、ラリーを続けることができる。(知識及び技能)</li> <li>・友達とアドバイスをしあい、どうすればラリーが続くのかを話し合うことができる。(自立活動) コ- (2)</li> </ul>
Bさんの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスに挑戦したり、自分の目の前にきたシャトルを打ったりすることができる。(知識及び技能)</li> <li>・友達のアドバイスを聞いたり困ったときに言葉で助けを求めたりすることができる。(自立活動) 人- (3)、コ- (3)</li> </ul>

学習活動 * (自立と社会参加に大切な力)	教師のかかわり 手立て	Bさんの自立活動における 支援の手立て	Bさんの評価の観点 かかわりの姿
1. 始めのあいさつをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の説明をする。</li> </ul> 2. 準備体操をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操ストレッチをする。</li> <li>・体づくり運動(二人組)をする。</li> </ul> 3. 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">相手コートから飛んできたシャトルを打ち返し、ラリーを続けよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始めが分かるように日直の号令であいさつするように促す。</li> <li>・体育係の真似をするように言葉をかけ、必要に応じてやり方の手本を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のルールを明確に提示し、集団の中で活動する大切さを伝える。心- (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を誘って体づくり運動を行っているか。</li> </ul>
4. チャレンジタイムを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの確認をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(ルール) ・友達の近くでラケットを振らない。 ・サービスは下から入るまで打つ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業を思い出させるように説明することで、授業の見通しを持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる、できない等の意思表示するように伝える。コ- (3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と繰り返しシャトルを打つ練習をしているか。</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階別練習をする。(全5ステージ) * (自己理解)</li> <li>Ⅰラケットにあてる</li> <li>Ⅱサービスを打つ</li> <li>Ⅲ弱い力で手前を狙う</li> <li>Ⅳ強い力で奥を狙う</li> <li>Ⅴスマッシュに挑戦する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ステージ1面ずつ用意する。</li> <li>・打つことが難しい場合には、風船や大きなラケット等を用いてラケットに当てる距離や感覚をつかめるようにする。</li> <li>・シャトルを正しく打つために手首の使い方等をアドバイスする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成功を目指してやり遂げるよう励ます。人-(3)</li> <li>・課題にあった場を確認し、一緒に練習を行う。健-(4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守っているか。</li> </ul>
<p>5. ラリーの練習をする。(1回目) (2～4人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標数を設定する</li> <li>・作戦をたてる</li> <li>・作戦を発表する。* (他者意識)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いで目標回数を決めることを伝える。目標が達成できた時には、新たに目標設定をするように促す。</li> <li>・どうすればラリーが続けられるかをグループで話し合う時間を設定する。(1～2分程度)</li> <li>・出た意見を発表するよう促す。</li> <li>・話し合った事を実践するように伝え、うまくできた時には、大いに褒め、続かないペアにはコツを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャトルに合わせて足や腕を動かすことを伝える。身-(1)</li> <li>・疲れたら言葉で伝えるように事前に言葉かけをする。身-(4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のアドバイスを聞き、真似しているか。</li> </ul>
<p>6. ラリーの練習をする。(2回目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事が見つけれない時には、教師と一緒にできそうなことを探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切な発言があった時には、静かな場で注意し相手の気持ちや感じ方を教師が伝える。人-(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表する友達を見て、聞いているか。</li> </ul>
<p>7. 片づけを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいを達成できたかカードに記入するように伝える。</li> <li>・できたことやできそうなことを発表するように促す。</li> <li>・日直の号令であいさつするように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を片づけるのか言葉をつける。人-(1)</li> <li>・本時の活動を教師と振り返る。人-(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーブが難しい時には、友達に言葉でお願いしているか。</li> </ul>
<p>8. 振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに記入する。</li> </ul>			
<p>9. 終わりのあいさつをする。</p>			

### ③授業づくりの3つの柱からの考察

環 境	<p>Bさんはバドミントンの単元が始まってすぐの頃は床に寝転んでしまう等、活動に乗り難い様子だった。チャレンジタイムで好きな曲を選び、それが流れている間は活動するという環境設定をしたことで今回の授業では曲を口ずさみながら時間いっぱい活動する姿が見られた。曲が流れている間という見通しがもてたこと、またそれが自分の好きな曲であることがBさんの意欲を向上させたと考え(②ア)。通常のラケットではシャトルを打つことが難しいBさんに面の大きなラケットを練習で使用したことや教師が打ちやすいところにシャトルをトスすることで打つことへの感覚を掴むことができ、楽しさを味わえた(③ウ)。生徒同士の活動だけでなく、教師との1対1体制や1対2体制と個々の障害の程度に応じて支援の方法を工夫したことで、シャトルを打つことが難しい生徒も雰囲気を楽しめた(③キ)。</p>
学習内容	<p>チャレンジタイムは個人の練習の時間になるため、集中力が続かなくなることが考えられた。そこで、段階別に練習方法を変え、難易度が徐々に上がっていくスモールステップの練習で全員がスキルアップをめざせるようにした(③エ)。ステージをクリアしていくゲーム方式にしたことで意欲が高まり、互いに言葉をかけあったりする様子も見られた。基本的な技能の定着をめざしたチャレンジタイムがラリーを続けることをねらった小集団の活動に向けてのよい効果となっていた。その時間に必要なルールの言葉かけがシンプルだったことも、Bさんには分かりやすかったのではないかと考えられる。学習カードで授業の始めにねらいを確認し、授業の終わりには活動の振り返りをする中で自己評価できていた(①イウ)。単元を通して学習の流れを大きく変えず、ホワイトボードに本時のねらいと学習の流れを掲示し視覚的に確認できることで、見通しをもって活動に取り組むことができた(②ウ)。</p>
活 動	<p>一人一人の運動量が十分に確保され達成感を得られる活動になっていた(①カ)。話し合い活動ができるように生徒の発言力や発言量を考えてグループ編成したため、作戦会議の時にはコートごとに話し合い作戦を立てている姿から互いを知る機会になり、穏やかにかかわることができた(①アオ)。</p>

#### 《Bさんの変容》

<p>教師は、休み時間や授業中にBさんの気持ちを推察し、Bさんの言葉を補いながら会話する等の共感的な働きかけや語彙を増やす学習を続けた。その結果、教師との言葉のやりとりでBさんは思いが相手に伝わったという経験を積み重ね、自分の気持ちを分かってもらえてうれしいという気持ちが育まれ、言葉でのやりとりが増えた。</p> <p>Bさんは興味・関心が限定的なところや自分に自信がもてないところがあるため、自分から挑戦する気持ちをもてるような活動等、教師は学習内容を工夫した。単元を通して大まかな流れを変えずスモールステップで取り組んだり、教師とのやり取りを通して活動内容を理解したりと指導を工夫した。その結果、自立活動の優先指導目標である「一定時間、決められた活動を行う」が達成しつつある。また、「言葉でのやりとりや行動等、人との適切なかわりを知る」については、集団学習を通して特別支援学級の生徒がBさんの特性を理解し接することで、Bさんは過剰な身体接触が減り、周りに受け入れてもらえるかわりがもてるようになってきた。周囲の表情や感情に気を配るようになり言葉が増え、友達を大切にする等、状況に応じた他者を意識した行動が見られるようになってきた。その結</p>
---

果、周りにも認められ褒められる機会が増えた。12月から始まった給食では牛乳担当になり、意欲や責任感をもって役割を果たす姿が見られる。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 研究から見えてきたこと

##### (1) 実態把握と支援の手立ての広がり

本研究では、社会の一員として地域で自分らしく主体的に生きていくことを見据えて、自立活動と各教科等に関連させた授業の中で、他者を意識したかかわりをどの場面でどのようにつけていけばよいのか探ってきた。児童生徒の実態を本研究で作成した自立活動チェック表で把握することで、何をねらいとするかが明確になり、集団においても個に応じた手立てを考えることができた。教科の学びを支えるために自立活動の視点で手立てを考えたことで支援の幅が広がり、個々に対する自立活動の課題や目標を教育活動全体で捉えることを意識できるようになってきた。教科の個々の目標の達成に必要な力をつけるために、自立活動を意識したことで指導内容や教材・教具の精選、授業展開の工夫等、集団学習においても個に応じた手立てを講じられたと考えられる。

##### (2) 集団学習から生まれた、児童生徒のかかわりの広がり

異学年で構成されていることが多い特別支援学級は、1つの小さな社会として社会性の基礎を培う場と捉え、個別での指導も行うが集団での指導の中でこそ、かかわりの育ちがあると考え実践してきた。協力を求めたくなるような題材や一緒に取り組むことが楽しくなる課題設定を考え、ペアやグループ活動等、他者を意識したかかわりを育む授業づくりを行った。小学校の図画工作では、教科の目標である「自分や友達の作品を見合い、作品の面白さやよさを感じ取っている」に迫るために、自立活動の手立てとして小グループごとに鑑賞を行ったことで、友達の作品に注目することができた。また、教師がよいところを紹介する等モデルを示したことで、よさを見つけにくい児童も友達の作品の色や形を認める言葉がでてきた。友達に褒めてもらえたことが児童の意欲につながり、「他の友達の作品も見たい」「友達の作品のよいところ分かる」という感想が児童から得られた。中学校の体育では、ラリーを続けることをねらいとしたため、相手チームの生徒も進んで打ち方のコツを身ぶりも交えて具体的にアドバイスする姿が随所で見られ、和やかな雰囲気でもバドミントンが行うことができた。

ペアやグループで話し合う時間を設けたことで、対象児は相手に関心をもち、認めてくれる、褒めてくれる仲間との適切なかかわりが他者への意識を広げた。友達の行動を見ることが増え、自分の思いを相手に伝えたいという気持ちの表出に繋がったと考えられる(図8)。また、教師が自立活動を意識した授業づくりを行ってきたことで、他の児童生徒も学習の流れが分かり一人でできる活動が増えたり、交流級で自分の考えを発表したり、相手の反応を考えて話をしたりと特別支援学級全体でかかわりの質が高まった。

##### (3) 教師の意識の変容

教師は児童生徒の思いを汲んで言語化することや望ましい行動を事前に伝えること、コミュニケーションのモデルを示すこと、できたことを具体的に伝え褒めること等、自立活動を教育活動全体に取り入れている姿が見られた。さらに、教師がスモールステップで進めたり約束やルールを明確に示したりと

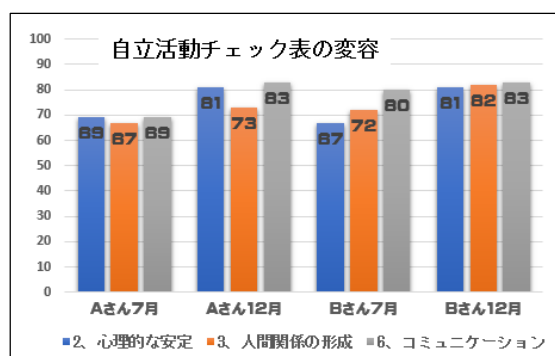


図8 対象児の自立活動のチェック表の変容

学習の流れを見直したことで、児童生徒は安心してかかわりながら学習に取り組めた。

授業者から次のような振り返りが出てきた。

- ・全体への指示と個別の支援を意識するようになった。
- ・現段階の個々の児童生徒の課題への指導を大切にしながら、自立と社会参加に大切な力を意識し、長期的な課題から今必要な支援を考えることができた。
- ・他の教師が、児童生徒の予想される行動や発言に対して、見通しをもって支援できるようになった。
- ・教師はチームで共通のツールである自立活動チェック表を活用して実態把握することや、自立活動を意識することができた。教師間で共通のかかわり方で支援したことによって、児童生徒の見取りが深まった。

教師が付けたい力に絞って授業を考えるようになり、特別支援学級の複数の教師で教科のねらいの達成のために実態に即した指導内容を考えることができた。児童生徒のかかわりを教師が見取れる範囲も限られ、全員の細やかな見取りを行うことは集団の人数が増えると難しいので、対象児の抽出やビデオで確認する等、ねらいや評価のための様々な方法を検討する必要があるだろう。

また、自立と社会参加に大切な力を考えたことで、授業の中でその力に重点を置いて育成をめざすことができた。しかし、これらの力はすぐに身に付くものではない。児童生徒の数年後の姿を想定し、何をどこまで育てるかを考え、できることやもう少しでできることを捉え、意図的・計画的に学習や生活の中で育てていく必要があると考える。今後は、将来を見据えて就労だけではなく、生活や余暇活動に繋がるような学習を意識する必要もあると感じている。

## 2 今後の課題

今回の学習指導要領の改訂で自立活動の「1 健康の保持」の区分に「(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」の項目が新たに設けられ、多様な障害の種類や状態等に応じた指導の充実が教師に求められている。新特別支援学校小学部・中学部学習指導要領において以下のように明記されている。

特別支援学校学習指導要領 小学部・中学部学習指導要領 第7章 第3 2(3) ウ  
個々の児童又は生徒が、発達の遅れている側面を補うために、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容を取り上げること。

障害の特性の理解を深める等の専門性を高め、自立活動の項目を関連付け、障害の特性を考慮しながら児童生徒のよさやできそうなことに着目して日々の指導にあたるよう指導方法を考えていくことが大切である。小学校・中学校の通常の学級に在籍している障害のある児童生徒の指導を行うにあたっては学習上又は生活上の困難に配慮する際に、担任だけではなく複数の目で自立活動の視点を考慮し実態把握を行い、自立活動の指導を参考にして、必要な支援を行うことができるだろう。

ルールや社会性は人とかかわりで獲得されるもので、社会参加に不可欠なものである。本研究で着目した人とかかわりに課題がある児童生徒に対しては、まず安心できる教師との一対一の関係から始め、楽しい経験や適切なかかわりを積み重ねることで相手を意識する力を育てることが大切であった。そこから、少しずつ小集団へと関係の幅を広げ、安心できる特別支援学級での集団学習の成功体験が、交流学級や学校、地域、社会へと所属する集団が変化しても、集団の一員として様々な人と協力しながら生活していこうとする態度につながるのではないだろうか。阿部<sup>11</sup>(2017)は、「みんなで協力できたから」や「助け合ってきた」等の集団の高まりを「集団肯定感」と呼んだ。児童生徒が人とかかわり、一緒に活動する喜びや楽しさを味わうような特別支援学級の集団を活かした授業づくりについて今後実践を通して検討していく必要がある。

<sup>11</sup> 阿部利彦が川崎市小学校特別支援教育研究会公開講演会 「授業のユニバーサルデザインと合理的配慮」で行った研修より 平成29年8月18日

各教科において育まれる資質・能力を支えている自立活動の指導を効果的に行うためには、特別支援学級の教師同士の情報の共有だけでなく、児童生徒の家庭やかかわる全ての教師の連携が求められる。そのためには、自立活動内容表を活用し共通理解を図ることや指導のねらいと達成度等をサポートノートに記載し、教師や学ぶ場所が変わっても一貫した支援が途切れることなく継続されることが大切である(図9)。

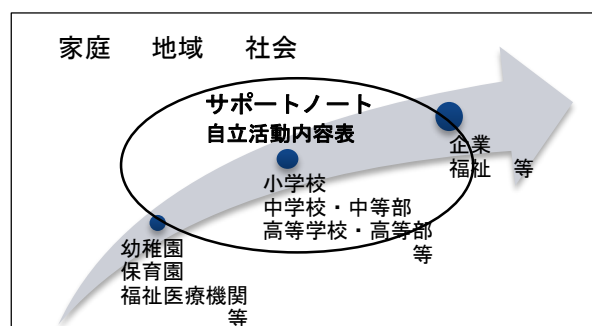


図9 支援の継続

最後になりましたが、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、検証授業や授業参観にご協力いただきました校長先生ならびに教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

#### 【参考文献】

- 中尾繁樹 『「特別」ではない特別支援教育③ みんなの「自立活動」特別支援学級・通級指導教室・通常の学級編』 明治図書 2009年
- 笹森洋樹・廣瀬由美子・三苫由紀雄 編著  
『新教育課程における 発達障害のある子どもの自立活動の指導』 明治図書 2011年
- 青山新吾 編集代表 『気になる子の将来につなげる人間関係づくり』 学事出版 2014年
- 岡山県総合教育センター 「自立活動ハンドブック」 2015年
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 「特別支援学級における自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究」 2015～2016年度
- 青山新吾 編集代表 『特別支援学級の異学年・小集団指導のポイント』 学事出版 2016年

#### 【指導助言者】

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 植草短期大学教授                          | 堀 彰人  |
| 川崎市立小学校特別支援教育研究会長(川崎市立末長小学校長)     | 中村 信一 |
| 川崎市立中学校教育研究会特別支援教育部会長(川崎市立桜本中学校長) | 鈴木 廣和 |
| 川崎市立特別支援学校校長会長(川崎市立豊学校長)          | 上杉 忠司 |
| 川崎市総合教育センター指導主事                   | 中村めぐみ |

#### 【研究協力者】

- |             |       |       |             |
|-------------|-------|-------|-------------|
| 川崎市立大戸小学校教諭 | 照沼あずさ | 横溝 悟史 | 伊藤 香        |
| 川崎市立日吉中学校教諭 | 岩本 晃子 | 半田 歩美 | 佐久間雅彦 福田 優美 |